

体育・スポーツ・健康づくりの交流で
地域を活性化する

TO THE NEXT...

日体大と自治体の挑戦は、これからも続いています

締結自治体(全国84の自治体) 2025年3月1日現在 ※締結順に掲載

- | | | | | |
|------------|------------|------------|-------------------|-----------|
| 美作市(岡山県) | 勝山市(福井県) | 岩国市(山口県) | 三重県(地域連携部) | 郡上市(岐阜県) |
| 愛知県 | 呉市(広島県) | 岩美町(鳥取県) | 新潟県 | 四万十市(高知県) |
| 紀の川市(和歌山県) | 柳井市(山口県) | 品川区(東京都) | 鳥羽市(三重県) | 南陽市(山形県) |
| 泉佐野市(大阪府) | 阿南市(徳島県) | 笠間市(茨城県) | 当別町(北海道) | 諏訪市(長野県) |
| 北山村(和歌山県) | 中標津町(北海道) | 狭山市(埼玉県) | 東根市(山形県) | 島田市(静岡県) |
| 小菅村(山梨県) | 三種町(秋田県) | 中山町(山形県) | 北部広域市町村圏事務組合(沖縄県) | 石川県 |
| 網走市(北海道) | みなべ町(和歌山県) | 別府市(大分県) | 戸田市(埼玉県) | 大田市(島根県) |
| 江南市(愛知県) | 守山市(滋賀県) | 宮古市(岩手県) | 須崎市(高知県) | 東御市(長野県) |
| 駒ヶ根市(長野県) | 厚木市(神奈川県) | 始良市(鹿児島県) | 中土佐町(高知県) | 大村市(長崎県) |
| 七尾市(石川県) | 南魚沼市(新潟県) | 桶川市(埼玉県) | 沼津市(静岡県) | 那賀町(徳島県) |
| 志賀町(石川県) | 海士町(島根県) | 常総市(茨城県) | 東村山市(東京都) | 大和市(神奈川県) |
| 島原市(長崎県) | 男鹿市(秋田県) | 大子町(茨城県) | 幕別町(北海道) | 山中湖村(山梨県) |
| 中間市(福岡県) | 可児市(岐阜県) | 藤井寺市(大阪府) | 下呂市(岐阜県) | 忍野村(山梨県) |
| 氷見市(富山県) | 東松島市(宮城県) | 都城市(宮崎県) | 安芸高田市(広島県) | 丹波山村(山梨県) |
| 神崎町(千葉県) | 小田原市(神奈川県) | 市川三郷町(山梨県) | 市町村行政振興協議会(長崎県) | むかわ町(北海道) |
| 上越市(新潟県) | 香美町(兵庫県) | 北杜市(山梨県) | 西宮市(兵庫県) | 御坊市(和歌山県) |
| 大山崎町(京都府) | 徳之島町(鹿児島県) | 米沢市(山形県) | 水俣市(熊本県) | |



NITTAIDAI × 自治体 FORUM 2024

2024年11月22日(金)
開催時間 ▶ 16:00~20:00
会場: 帝国ホテル東京 本館中2階 光の間

NITTAIDAI

学校法人日本体育大学 法人事務局 総合企画部
TEL: 03-3704-5203 FAX: 03-3704-3342

学校法人日本体育大学とともに

これからの「体育・スポーツ・健康づくり」を

語り合い、学び合う



日本全体の人口減少や少子高齢化とともに、
経済のグローバル化の進展や新興国の台頭など、
世界経済の環境変化が著しい昨今、
「地方再生・創生」は国が掲げる重要課題です。

学校法人日本体育大学が地方自治体と手を取り合い、
体育・スポーツを通じた地域活性化に取り組み、はや10年。
その成果は、着実に実を結び始めています。

式次第	16:00	開 会	
	16:05	理事長挨拶	学校法人日本体育大学 理事長 松浪 健四郎
	16:10	学長挨拶	日本体育大学 学長 石井 隆憲
	16:15	セミナー	基調講演 長崎県大村市 市長 園田 裕史 様 事例発表Ⅰ 和歌山県紀の川市 教育委員会 生涯スポーツ課 課長 山中 邦弘 様 事例発表Ⅱ 日本体育大学 保健医療学部 整復医療学科 教授 スポーツケアセンター 院長 伊藤 謙
	18:10	協賛団体講演	一般社団法人JAD(日本農業開発) 常務理事 青井 勇輝 様 株式会社キズナホールディングス ラジオパーソナリティ くまきもえ 様
	18:45	情報・名刺交換	
		学校紹介	日本体育大学附属高等支援学校 校長 平野 雅嗣
	19:40	閉会の挨拶	学校法人日本体育大学 常務理事 今村 裕
		特別ゲスト	2024パリオリンピック レスリング女子フリースタイル 53kg級 金メダリスト 藤波 朱理 選手



理事長挨拶 | 学校法人日本体育大学 理事長 松浪 健四郎

創立134年を迎える日本体育大学が誇る“3つの日本一”



日本体育大学は創立134年を迎えました。本学には日本一と誇れるものがありますが、今回はその中から3つを紹介させていただきます。

第一に北海道網走市にある日本体育大学附属高等支援学校です。令和5年時点、全国に支援学校は1,178校あり、そのうち15校が私立ですが、大学法人が開校した支援学校は本学だけです。附属支援学校では日本体育大学の学生が特別支援学校教員免許取得のための実習も行っており、教員採用実績は全国でもトップレベルを誇っています。本学は障がいのある子どもたちに、体育やスポーツを教えようという気概ある学生を、数多く輩出している大学であることをお知らせしておきます。

第二には、SPORT FOR TOMORROW (スポーツ・フォー・トゥモロー)の取り組みです。我が国は東京オリンピック招致の際に、途上国に体育・スポーツ指導者を派遣してスポーツ振興のために協力する

という国際公約を訴えました。青年海外協力隊は、体育、スポーツ青年指導者や小中高の教員など多くの若者を派遣していますが、その派遣者数1位が本学です。発展途上国の多くの人たちにスポーツを愛してもらいたい、モラル向上のために尽くしてほしいと願っています。

第三として、本学がこれまでオリンピックで獲得したメダルの数です。これは49個に上り、他の追随を許さない日本一の実績であります。こうした本学に好意を持っていただき、さまざまな形で交流をさらに密にいただければありがたいと思っております。今後とも、何卒よろしく願い申し上げます。



学長挨拶 | 日本体育大学 学長 石井 隆憲

連携協定に必要な体力、それは日本体育大学自体の体力



私が学長になって4年目を迎えます。今日、ここに多くの知己の方々がいらっしゃることに、心よりうれしく思います。本学との連携協定を結んでいただきまして誠にありがとうございます。

この連携協定は、やはり「体力」がないと難しいと感じています。これは文字通りに身体からだの体力もありますが、もうひとつ、日本体育大学自体の体力です。そういうものがなく、連携を継続し発展させていくことが難しいのです。せっかくご相談いただいても、授業期間や大会期間と

重なった折にはスケジュールの調整が難しく、十分にご対応できないこともあろうかと思えます。したがって、大学の休業期間に集中してしまい、なかなか日程が調整できないということも起きています。そうした部分を少しでも解消するために、何らかの方策を考えなくてはいけないと感じています。各自治体からさまざまなご要望があるかと存じます。ぜひ率直にお伝えいただいて、本学としましても十分応えられるような対応を取っていただければと考えております。

基調講演

長崎県大村市 市長 園田 裕史 様

スポーツはさまざまな要素で
まちづくりと直結する

「スポーツをする、見る、支えるまちづくり」をテーマとする大村市のさまざまな施策をご紹介します。まずはインナー施策として、スポーツチャレンジデーなど、市民が気軽に参加できるイベントを数多く開催、またアウトナー施策として、オリンピックの事前キャンプなどの合宿誘致やFIBAバスケットボール・ワールドカップのアジア予選開催といった大会誘致を行っており、活動は多岐にわたります。

市独自の支援も充実を図っており、令和5年度は518名のスポーツ遠征費を助成しました。さらに給付型奨学金の対象を広げ、スポーツ、文化、芸術で一芸に秀でる子どもたちへの給付をスタートしています。

障がい者のスポーツ参加とバリアフリーのまちづくりにも注力しています。スポーツ・アクティビティ用車いす「パラサポ!ミライ」を使った

全国初の車いすリレーを実施したことも一例でしょう。スポーツによる未来のまちづくりも考えていかねばなりません。競艇事業発祥の地である大村市として、競艇場内にスケートボードやBMXなどアーバンスポーツの施設を作りましたが、これは競艇場に新たな価値を付与し、その売上を市民に還元することが狙いです。

そうした活動を通して、スポーツはまちづくりと直結すると実感しています。今後も日本体育大学のお力をお借りしながら進めていきたいと思っています。



ポートルース犬村



大村市ホームページ

<https://www.city.omura.nagasaki.jp>



事例発表

I 和歌山県紀の川市 教育委員会 生涯スポーツ課 課長 山中 邦弘 様

子どもたちには夢を、大人には元気を、
高齢者には健康を

紀の川市は、平成17年に5町が合併して誕生しました。和歌山県北部に位置し、中央を紀の川が流れ、全国有数のフルーツ産地でございます。日本体育大学との連携協定は、平成27年に全国で3番目に締結をいたしました。現在は、指導員派遣及び大学生と子どもたちの交流などを中心に行っております。

2024年度は、スポーツ体験として小学6年生30人を受け入れていただき、講師の方からお話を伺ったり、トランポリンなどを体験させていただいたりしました。参加者からは「もっとスポーツのことを知って、将来に生かしたい」、「運動は得意ではないが、参加して楽しいと思えるようになった」といった声が上がったことは大きな成果だと思っています。

紀の川市が策定した「第2次長期総合計画」では、生涯スポーツ活動推進のため、高度で専門的な施設、人材を有する日本体育大学とのスポーツ交流を発展させ、児童、生徒のスポーツに対する関心を高め、指導者の発掘、育成を行うとしております。紀の川市では、これからは日本体育大学と連携をしながら、「子どもたちには夢を、大人には元気を、お年寄りには健康」をもたらすために、生涯スポーツ活動推進に努めていきたいと思っています。



紀の川市ホームページ

<https://www.city.kinokawa.lg.jp>



II 日本体育大学 保健医療学部 整復医療学科 教授 伊藤 譲
スポーツキュアセンター 院長

社会的つながり+運動で、健康寿命を延ばす

健康寿命を延ばすためには「ゼロ次予防」、すなわち健康行動を支える環境づくりが大切です。転倒を原因とする股関節の骨折は年間25万人。それが健康寿命を奪い、年間9,500人が命を落としています。私たちはこれまでの指導経験から、怪我が選手生命を奪うこと、お年寄りであれば健康寿命を奪うことを認識しているからこそ、正しい運動方法や外傷の発生リスクを減らす方法、適切な対処方法等を提案できると考えています。

研究では、社会とのつながりを持つことが健康長寿には重要だということが分かっています。

私たちが開催する健康教室は、継続的に参加いただくことで和気あいあいのコミュニティが形成され、健康長寿の延伸を実現するものです。キッズ対象プログラムは、「運動能力アップ」と「怪我をしない身体作り」で構成しています。前者は記録にこだわらず、みんなで運動を楽しむことを重視し、後者は、柔軟性やバランス、コーディネーション能力を磨きます。

幸いなことに私たちの事業は好評を得て、各自治体からのリピート依頼も増えてきました。ぜひこれからも自治体の皆さまと健康コミュニティ作りを進められたらと考えています。



スポーツキュアセンター横浜・健志台接骨院
ホームページ

<https://www.nittai.ac.jp/about/facility/cure.html>



Special guest

特別ゲスト

2024パリオリンピック
レスリング女子フリースタイル
53kg級 金メダリスト

ふじなみ あかり
藤波 朱理 選手



Photogallery 2024



協賛団体講演



一般社団法人JAD(日本農業開発) 常務理事 青井 勇輝 様

ゼロカーボンシティ実現のために、
地域資源循環農漁業で町を豊かに

最近注目されている軒高ハウス栽培は、高利益を生み出す反面、高い光熱費が課題になっています。そこで私たちは、家庭から出るプラスチックごみを回収し、リサイクルした油燃料を農業と漁業に使う資源循環を提案しています。光熱費だけでなくCO2排出量の削減にも役立ち、ゼロカーボンシティの実現に貢献することが

できるでしょう。廃プラスチック類を油燃料に変えるこのプラントは、人口規模に応じた運転が可能です。耕作放棄地に軒高ハウスを建て、その燃料でブランド化しやすい農作物を育てれば、若年世代の流入、ひいては地域活性化にもつながると確信しています。

一般社団法人JAD
ホームページ

<https://jad-f.com>



株式会社キズナホールディングス
ラジオパーソナリティ くまき もえ 様

キッチンカーや特殊車両で
地域活性化、被災地支援、地方創生

株式会社キズナホールディングスが取り扱う高品質でユニークなキッチンカー、特殊車両は、地方自治体の皆さまにこそ活用していただきたいと思います。例えばアンテナショップカーですが、都心一等地に店を構えるのは異なり家賃不要、客足に応じて柔軟に移動できるため、効率的なショップ運営が可能になるでしょう。

また、ステーション機能付きトイレ支援カーは、被災地のトイレ問題解決に貢献できるはず。他にも諸外国人材の活用スキームを構築し、農業従事者の高齢化に伴う後継者不足や就農者減少といった課題の解決に挑戦しています。当社の事業を通して地方創生に貢献できれば幸いです。

株式会社キズナホールディングス
ホームページ

<https://kizuna.team/>



学校紹介

日本体育大学附属高等支援学校 校長 平野 雅嗣

オホーツクの大地でスポーツ・労作・情操の
3つの柱で生きる力を培う

日本体育大学附属高等支援学校は、平成29年に北海道網走市に設置され、開校8年目を迎えた、知的障がいのある生徒の男子校です。原則全寮制で集団生活を通して、将来的に自立して生活できることを目指しております。

教育の柱は、「スポーツ教育」、「労作教育」、「情操教育」の三教育。開校当時から揺るぐことなく現在まで継承しています。「スポーツ教育」は、人としての基本である健康で逞しい体を形成すること、そしてスポーツに欠かせない

ルールを守ることで、集団生活を有意義なものにするを目的としています。「労作教育」は、農業、木工、ビルメンテナンス、陶芸など、社会自立を目指して職業教育を実践しています。「情操教育」は、豊かな感受性を育むために美術と音楽を設定しています。

子どもたちには無限の可能性が広がります。本校では知識だけでなく、さまざまな体験活動を通して「未見の我(まだ見ぬ自分)」を探せる学校だと思っております。



日本体育大学附属高等支援学校
ホームページ

<https://s-nittai.ed.jp>



閉会の挨拶

学校法人日本体育大学 常務理事 今村 裕

「大学を選ぶなら日体大」を目指して社会づくりに貢献



この自治体連携も今年で10年目を迎えることになりました。ここに至り、初代の甲府市長であり、日本の証券市場を創ったともいわれる若尾逸平氏の言葉「これから株を買うなら将来性がなければ望みはない」が思い起こされます。現在、大学という組織は、創造的な挑戦と多様な人材育成をしなければならない時代です。日本体育大学においても、日本の未来を見据え、新しい社会づくりに取り組んでいくことは必須でしょう。「株を買うなら将来性がなければ望みがない」という至言のとおり、「大学を選ぶなら日体大」と評される存在にならなければいけません。

この自治体連携も着々と発展を遂げています。本学には多くの専門家がおりますので、ぜひ、遠慮せずにお声掛けください。これからも選ばれる大学として指名されるように鋭意努力していきたいと思っております。今後ともご支援をよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。



2024年度の活動例

学校法人日本体育大学を軸としたネットワークを構築し、地域を活性化することで、幅広く社会に貢献していきます

1 日体フェスティバル開催 連携地域物産展in東京・世田谷キャンパス

毎年11月に日本体育大学 学園祭「日体フェスティバル」内のイベントの一つとして「物産展」を開催しております。

協定を締結している自治体の皆様から希望を募り、出展していただいております。

令和6年度は15もの自治体が出展していただき、毎年盛況のなか開催できております。



2 能登半島地震 復興支援事業 プロジェクト

日本体育大学では、連携協定先である自治体において、能登地方の復興に向けての支援事業を展開いたしました。

第1.2回は志賀町に約40名程度、第3回は七尾市に約30名程度、それぞれ学生・教職員が赴き、破損した家財道具等の移動、片付け、仕分け作業やボランティアセンターの整理補助等に参加しました。



3 夏休み受け入れ事業

おもに児童・生徒たちの夏休み期間向けに、自治体連携協定先からの要望に応じて、全設置校(主に大学)の運動施設や宿泊施設を活用しながら、教職員の講義や学生とのスポーツ交流を交えた体験型合宿的な活動をおこなっております。

毎年、児童・生徒たちが目をキラキラさせながら実施プログラムに取り組んでいるのが印象的です。

